

第4回こんな長崎どがんです会（令和5年10月11日）

テーマ：避難行動の促進と地域防災力の確保に向けて 参加者：8人

主な意見	対応状況
（避難の促進について） ○以前はこの程度の雨でも大丈夫だったという経験が積み重なっていて、避難しないでいいという気持ちになっているのかも知れない。 ○「高齢者等避難情報」が発表されても、高齢者が避難する情報だとの意見があった。70歳代後半の両親も高齢者ではないと思っている。 ○楽しい避難、一種の社交場と思わせるようにならないか。 ○避難のよびかけには、気心がしれた同士の言葉、相手の心に響く言葉が必要。	○災害が激甚化、頻発化する中、災害を自分事として捉え、避難行動に繋げていくために、 ・自治会や企業に対しPRするなど県政出前講座を増やすなどして、県民への説明機会の増加を図るとともに、避難情報のわかりやすい説明に努めます。 ・避難したことで被害を免れた事例などの効果的な説明やハザードマップの活用促進、個人ごとのタイムラインの設定などについて、他の都道府県の取組や専門家のご意見を参考しながら、市町や関係団体等とも連携して取り組んでまいります。
（地域防災力の確保・消防団） ○消防団の勧誘のしかたが大事。消防団活動を面白くやろうという誘いに応じた。 ○他の地域の人が消防団に入ると活動が改善されることもあるのではないかと。また、この分団には誰がいるというのがわかったと、入りやすいのではないかと。	○消防団員の勧誘活動については、所管する市町が主体ではありますが、県においても、PR 動画の作成・YouTubeを活用しての発信や、企業等への訪問・協力依頼などを実施するとともに、市町職員に対する研修会の開催や、奏功事例の紹介など、市町の支援を行っております。今後、より効果的な対応となるように、今回のご意見も参考にしながら、市町と連携して取り組んでまいります。
（地域防災力の確保・自主防災組織） ○自主防災組織のトップにも臨場感が必要。 ○自主防災組織の会長は、1年交代ではなく、長く続けて、働いてもらいたい。	○自主防災組織の結成、活動支援については、管轄する市町が主体ではありますが、県においても、防災推進員養成講座やフォローアップ研修を開催し、地域リーダーを養成するなど、市町と連携して取り組んでおります。今後、今回のご意見や、消防団のOB活用など全国の奏功事例等も参考にしながら、より効果的なものとなるように、市町と連携して取り組んでまいります。
（地域防災力の確保・消防団と自主防災組織共通） ○「島原防災塾」のように遊びながら、子供のころから、防災のことをしっかりと考えさせることは大切。	○幼少期から消防団や防災活動にふれることはとても重要であり、県においても、消防団や防災活動に係る動画等の啓発・PR 資料を作成・提供しており、今後、今回のご意見や島原防災塾のような奏功事例も参考にしながら、市町と連携して、防災教育を推進してまいります。